

**製品名: RELB マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM81359**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	IHC,ICC,ELISA,FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG2a
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	IHC 1:200-1:1000,ICC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,FC 1:200-1:400
分子量	62.1kDa

**抗原情報**

遺伝子名	RELB
別名	IREL; I-REL; REL-B
遺伝子 ID	5971.0
SwissProt ID	Q01201
免疫原	大腸菌で発現したヒト RELB (AA: 273-443) の精製された組み換え断片。

**背景**

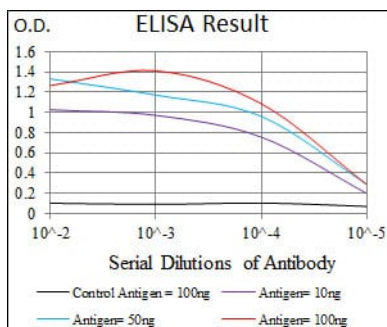
NF-κB は、ほぼすべての細胞型に存在する多面的転写因子であり、炎症、免疫、分化、細胞増殖、腫瘍形成、アポトーシスなど、多くの生物学的プロセスに関与しています。NF-κB は、Rel 様ドメイン含有タンパク質 RELA/p65、RELB、NFKB1/p105、NFKB1/

p50、REL、および NFκB2/p52 によって形成されるホモまたはヘテロ二量体複合体です。二量体は標的遺伝子の DNA の κB 部位に結合し、個々の二量体は異なる κB 部位に対して明確な親和性と特異性を持って結合することができます。異なる二量体の組み合わせは、それぞれ転写活性化因子または転写抑制因子として機能します。NF-κB は、翻訳後修飾や細胞内区画化などのさまざまなメカニズム、および他の補因子やコリプレッサーとの相互作用によって制御されます。NF-κB 複合体は、NF-κB 阻害因子 (I-κB) ファミリーのメンバーと複合体を形成し、不活性状態で細胞質内に保持されます。従来の活性化経路では、I-κB は様々な活性化因子に反応して I-κB キナーゼ (IKK) によってリン酸化され、その後分解されて活性 NF-κB 複合体が遊離し、核に移行します。NF-κB ヘテロ二量体 RelB-p50 および RelB-p52 複合体は転写活性化因子です。RELB は DNA、RELA/p65、REL とは会合しません。NFκB2/p49 の存在下でプロモーター活性を刺激します。NUPR1/RELB/IER3 生存経路のメンバーとして、膵管腺癌に飢餓やゲムシタピン治療などの細胞ストレスに対する顕著な耐性を与える可能性がある。

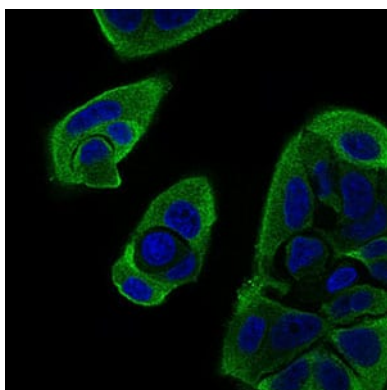
## 研究分野

MAPK シグナル伝達経路

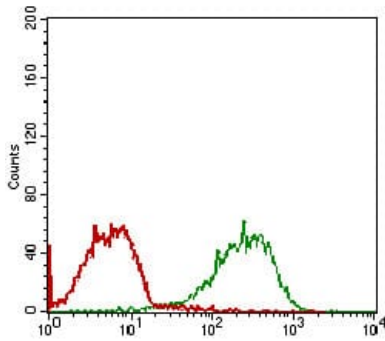
## 画像データ



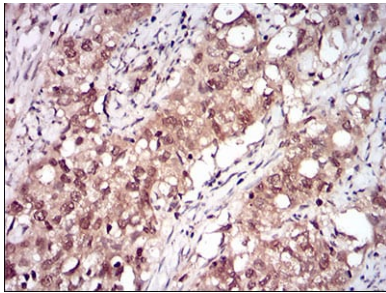
黒線: コントロール抗原 (100 ng); 紫線: 抗原 (10 ng); 青線: 抗原 (50 ng); 赤線: 抗原 (100 ng);



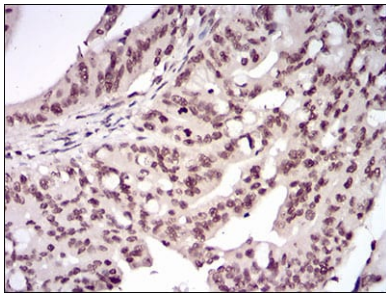
RELB マウス mAb (緑) を用いた MCF-7 細胞の免疫蛍光染色。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。



RELB マウス mAb (緑) とネガティブ コントロール (赤) を使用した MCF-7 細胞のフローサイトメトリー分析。



RELB マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト子宮頸癌組織の免疫組織化学分析。



RELB マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト直腸癌組織の免疫組織化学分析。